

小児に多い感染症と薬

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

原因：A群溶血性レンサ球菌
特徴：学童期（6～12歳）に最も多い
症状：突然の発熱、全身倦怠感、
咽頭痛、嘔吐など
治療：ペニシリン系薬剤
アレルギーがある場合：エリスロマイシン

● いずれの抗菌薬も
少なくとも10日間確実に
服薬することが必要

● エリスロマイシン
（マクロライド系）は
薬剤耐性に注意

咽頭結膜炎

原因：アデノウイルス
特徴：学童期（6～12歳）の罹患が主
（5歳以下が約6割）
症状：発熱、頭痛、全身倦怠感、咽頭痛、
結膜充血、眼痛、羞明など
治療：対症療法が中心

● ウイルス感染症には
抗菌薬は使用しない

● 感染症法：5類感染症
医療機関からの毎週報告

● 学校保健法：第二種伝染病
主要症状消失後2日経過するまで出席停止

手足口病

原因：エンテロウイルス

● ウイルス感染症には
抗菌薬を使用しない

感染性胃腸炎

原因

- ・細菌
腸炎ビブリオ、病原性大腸炎、
サルモネラ、カンピロバクター
- ・ウイルス
ノロウイルス、ロタウイルス、
腸管アデノウイルス
- ・寄生虫
クリプトスポリジウム、アメーバ、
ランブル鞭毛虫

治療：基本的に対症療法
一部細菌、寄生虫による感染
の場合は抗菌薬、抗寄生虫薬



POINT 胃腸炎では脱水に注意

小児

- ・少量でもいいので、頻繁に水分を摂取するように促す
- ・嘔吐が激しい場合、飲んだ水分を吐かないようであれば、
10～15分おきに水分を繰り返し与える

乳児

- ・経口電解質溶液（経口補水液）とともに母乳、人工乳を与える
- 真水は塩分が含まれていないため年齢にかかわらず
小児の脱水対策ではできれば避ける
- 電解質溶液は24時間以上、与え続けないようにする

お母さんやお父さんへ 服薬指導するときのポイント

抗菌薬だけでなく小さなお子さんにお薬を使うことに対して不安な気持ちをもった親御さんはたくさんいらっしゃいます。そのような感情をもった方にはまずは「共感」が大切です。そしてどうしてそう思うのかを聞いてみましょう。正しい使い方を伝えることで、不安を取り除き「大丈夫ですよ」と伝えてあげられるようにしましょう！